

6. 【水域：増殖場】 漁業収入増加と磯焼け対策のためのウニ蓄養への活用：古平漁港（北海道古平町）

概要

- 古平漁港では、磯焼けの広がりにより、沿岸域が漁場として利用できない状態となっている。
- そのため、未利用資源の活用による漁業収入の増加と間接的な磯焼け対策を目的に円筒籠を用いた港内でのキタムラサキウニの蓄養試験を実施。
- 試験では身入りの改善や時化の際に高値で取引される等の成果があり、今後は大型の蓄養施設での取組継続を検討している。



背景

- 天然ウニ漁は、古平漁港周辺の岩礁域で行っているが、近年、磯焼けが広がっており、沿岸域の半分は漁場として利用できない現状にある。
- 浅海漁業者の減少や、近年の異常気象等による出漁回数の減少により、現在の外海だけの漁業形態では、漁獲量の回復を見込むことができない。

有効活用の内容

- キタムラサキウニは、天然の漁場でとれた身入りの悪いものを漁港の一角で円筒カゴに収容し、漁港内において養殖した海藻を給餌し身入りの改善を図る。
- ウニ籠養殖により身入りの改善や高値での取引等一定の効果が見られたが、収容個数の制限があることや給餌作業や漁獲作業が重労働であること等の課題が明らかになったため、今後は大型の蓄養施設を整備しての取組継続を検討している。

活用した漁港施設	水域
実施時期	平成27年～
実施主体	東しゃこたん漁協古平地区浅海漁業部会
活用した事業	H27～H29：日本海漁業振興対策事業（北海道） H30～：東しゃこたん漁協古平地区浅海漁業部会単独事業
実施した手続き	占用許可

古平漁港



効果

- ある程度、身入りなどの改善は図られ、平成30年度には試験的に市場へ出荷を行った。
- 価格としては、時化が続いたときを見計らって出荷することが可能となったことで、2,500円/kg以上の高値が付くこともあった。
- 市場へのお荷、地元飲食店への販売の他、町外に販路を拡大することを検討するなど地元の活動が促進されている。
- 今後は、収容個数、収益性の大幅な増加見込むことができる大型の蓄養施設での事業化を検討。